

現地調査(北陸)の概要

【実施日】 平成31年2月5日、6日

【訪問先】 ◆ 新潟県上越市

◆ 富山県富山市

◆ 石川県金沢市

◆ 福井県鯖江市

調査先概要

新潟県上越市（平成31年2月5日）

◎ 上越市役所

〔対応者〕 上越市長（表敬）、理事、財務部長、自治・市民環境部長 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ 広域合併
- ・ 地域自治区、地域協議会
- ・ 近隣市町村との連携 など

富山県富山市（平成31年2月5日）

◎ あしたねの森（高齢者施設と保育園を併設）

〔対応者〕 社会福祉法人アルペン会 理事長 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ 公・共・私のベストミックス（共・私からみた公）
など

◎ 富山市役所（まちなか総合ケアセンター）

〔対応者〕 富山市まちなか総合ケアセンター所長、企画調整課長、都市計画課長 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ 連携中枢都市圏の取組 など

石川県金沢市（平成31年2月6日）

◎ Share金沢（障害児入所施設、高齢者デイサービス事業所、サ高住、学生向け住宅などを併設）

〔対応者〕 社会福祉法人佛子園 常務理事 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ 公・共・私のベストミックス（共・私からみた公）
など

◎ 金沢市役所（金沢広域急病センター）

〔対応者〕 金沢市保健局担当局長、企画調整課長、健康政策課長 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ 連携中枢都市圏の取組 など

福井県鯖江市（平成31年2月6日）

◎ 鯖江市役所

〔対応者〕 鯖江市副市長（表敬）、政策経営部長、情報政策監、市民まちづくり課参事 ほか

〔主なヒアリング事項〕

- ・ オープンデータの取組
- ・ 住民参画によるまちづくり など

現地調査での主な意見（上越市）

凡例

○: 委員等の発言

→: ヒアリング先団体の発言

【合併の評価】

- 合併の評価は、誰が評価するか、何を比較するかが難しい。行政としては効率化が図られて、財源がまちづくりに活かせるようになった。旧町村が廃れる、という声にどう答えるのかが課題。
- 合併に伴う財政措置が講じられたが、一体感の醸成や新市を形づくるハード整備については10年では短い。

【インフラ・公共施設】

- 近年では土木・建築技師の確保が難しい。民間経験者の採用も行っているが、応募人数が少ない。
- 公共施設の集約に当たって、廃止と合わせて、別の施設の設置やサービス向上を行うのか。
- まずは老朽化した施設や利用の少ない施設から再編を進めた。以前は施設のカテゴリごとに優先順位を付けていたが、今後はその地域ごとに必要な施設・機能を地域自治区ごとの地域協議会や関係者で議論していただき、施設の再編を進めていきたい。
- 上越市の車道除雪延長は1,700km。近年でも新規が廃止を上回り、延びている。除雪費用の負担が大きい。
- 「合併してもいいことはなかった」、「新幹線が開通しても恩恵がない」という声はある。実際には市民への福祉サービスが向上している面や税収増加の恩恵を受けている面があるが、地元の施設の廃止に目が向いてしまう。

【近隣市町村との連携】

- 定住自立圏を形成しない理由は何か。また、近隣市町村とどのような連携が考えられるか。
- 広域合併により圏域を先行して形成。市域が広く、日常的な業務の協力は一部を除いてほとんどないが、観光では連携を推進中。

【公共私のベストミックス】

- 毎年計1.8億円を地域活動支援事業として地域自治区に配分。提案事業は地域協議会が審査している。
- 上越市内には、NPOの活動を支援するNPOが存在。旗振り役がいて、民間主導の中間支援組織である。
- 住民組織の中には、高齢化が進み、次代を担う人材の確保に困っている団体もある。

【地域自治区・地域協議会】

- 地域協議会での議論が活発になる要因は何か。
- 一概にはいえないが、無報酬であることで、制約なく議論ができるという意見があった。また、地域協議会による自主的な審議事項を、市は真摯に受け止めて対応している。市の姿勢が伝わっているのではないか。

現地調査での主な意見（富山市（あしたねの森、富山市））

凡例

○：委員等の発言

→：ヒアリング先団体の発言

あしたねの森

【行政に期待すること（共・私からみた公）】

- 高齢者福祉も児童福祉も同じ福祉だが、施設を設置する当初は壁があった。学童、保育、高齢者、障害者という4つの分野にまたがる施設で、市の関係部署も3課あったので、それぞれに説明して回った。
- 学校での勉強についていけない子どもに対する支援を行いたいが、学童では学習の支援を行ってはいけなと指摘される。親が働くなどして学童を利用している中で、親の役割だと割り切れないのではないか。
- 補助金を受ける際などに複合施設であることで制約はあったか。
- 子どもに対する施設であっても、対象となる子どもが異なると連携されていない。また、対象となる属性ごとに支援メニューがある一方で、健常者と障害者の中間がないため、解決策が見つからないことがある。
- 若い世代の職員の中には、介護保険に慣れて、施設利用者が必要としてもメニュー化されていないサービスは行ってはならないと考える者もいる。

富山市

【インフラ・公共施設／職員体制】

- 施設の集約をどのように進めているのか。また、長期的な職員体制はどのように見込んでいるか。
- 合併した旧町2地域の公共施設の再編に関し、地域住民によるワークショップを開催し、プロのファシリテータが関わりながら意見集約を行っている。参加住民の公募も行っている。
- 現在のところ、事務系職員は募集人員を上回る応募はあるものの、技術系職員は不足気味。ベテラン職員の再任用など工夫している。数十年後のことは予測が難しい。

【連携中枢都市圏】

- 連携事業をどのように進めてきたのか。また、どのような制度改革があれば連携が進むか。
- 医療圏や一部事務組合が素地となり圏域を構成。まちなか総合ケアセンターは元々富山市の施設であり、連携市町村に建設費用の分担を求めずに、利用範囲を拡充した。
- 今後、圏域で観光の連携を進めたい。緩やかな連携であり、現在のところ制度改革を望む事項は特にない。

現地調査での主な意見（金沢市（Share金沢、金沢市））

凡例

○：委員等の発言

→：ヒアリング先団体の発言

Share金沢

【行政に期待すること（共・私からみた公）】

- 障害児が壁に囲まれて生活するのではなく、色んな人とかかわる「ごちゃまぜ」の施設を目指した。
- Share金沢の設立当初とは異なり、近年は「共生社会」の考え方が浸透し、理解が得られやすくなった。
- 複数の補助金（高齢者福祉、障害者福祉等）を受けて施設を建設した。当初は、補助を受けるために、同じ施設であっても複数の廊下を設置することを求められたが、断った。

【高齢者向け住宅（サ高住）とCCRC】

- 日本版CCRCのモデルともいわれるが、CCRCの動きに乗る形で施設を作ったのか。
- 施設を設けた後から、外部の方々から言われるようになった。
- 高齢者向け住宅は、県内の需要があると見込んでいたが、実際には県外からの入居が半数以上となった。

金沢市

【連携中枢都市圏／県との関係】

- 連携中枢都市圏の制度についてどのような点を改善すべきか。
- 利害が対立しやすく連携が難しい分野もあり、財源措置も含めて、調整をどう応援するかが課題。都市・交通など空間に関わるものも進めるべきだが、進んでいない。サービスの供給主体となることも考えられる。
- 都道府県からのアドバイスや支援があると連携に取り組みやすい。財政支援があるとより良い。
- 専門人材には地域的な偏りがあり、都市に集まる。分野によっては県全体でやった方がいいものもある。

【公共施設】

- 公共施設の整備・維持管理にメリハリをつけて財政措置すると市町村の行動は変わるのではないか。
- 連携を進めると、周辺市町から施設が連携中枢都市に集中するという声が出ないか。
- 1市町村に複数ある施設であれば、市町村境部分などで相互に統廃合の可能性はある。住民に「近隣市町村の施設を使っても料金は低くする」といった提案をすれば、利用者はこだわらないのではないか。

現地調査での主な意見（鯖江市）

凡例

○: 委員等の発言

→: ヒアリング先団体の発言

【オープンデータ】

- オープンデータの取組によって便利なアプリが開発されているが、開発費用はどうしているのか。
→ 例えば、バス路線のデータは、整備に1,000万円程度かかったが、その後は誰でもアプリを作成できる状態で、ほとんど費用をかけていない。
- ICTを活用することで、2040年に職員数を半分にすることにつながるか。
→ 既存の職務と同じ仕事の仕方では難しい。従来の品質を維持することは難しくなるので、権限のある者が一定の妥協をする必要があるのではないか。学校でも、ICTを使いこなす教職員であれば効率性が高くなる。
- 鯖江市のアプリ(250種類)のどの程度を市民が作成しているのか。
→ 全て市民が作成している。アプリはプログラミング教育を受けた子どもが作成することができるレベルのもの。
- オープンデータの取組は職員に浸透しているのか。
→ 市長がことあるごとに職員に説明している。研修を3年程度行っており、職員の抵抗感はなくなっている。

【住民参加の取組】

- JK課が取り上げられるが、それ以前に市民活動が活発でなければうまく行かなかったのではないか。
→ 1995年に世界体操競技選手権鯖江大会を開催し、多くの市民がボランティア活動を体験。大会を成功させたことで自信になり、市民活動が活発になった。
→ JK課が発足して3年後に高校生サミットを開催した。あわせて、OCサミット(OC=おばちゃん)も開催している。
- 長期的には、男子の方が市内に戻ってくる割合が高いのではないか。
→ JK課の取組と並行して、男子学生も募集しており、毎年男子学生も数名参加している。
→ 高校生の間に鯖江市のことを知り、県外に出ても自分に戻る場所はあることを知ってもらおうという考え方。
→ 結果として、JK課卒業生19名中、17名は県内にとどまり、13名は今もまちづくり活動を継続している。

【公共施設・インフラの維持】

- 長期的な公共施設・インフラの維持として、2040年頃までを見通しているか。縮小・再編が必要ではないか。
→ 現在の試算では年80億円に上る維持更新費用を削減したい。今後、個別計画を作成。2040年までは見通していない。世界大会の際に整備した施設の更新が一気にくるのでいかに平準化するかが課題。

現地調査(北陸)の概要(参考資料)

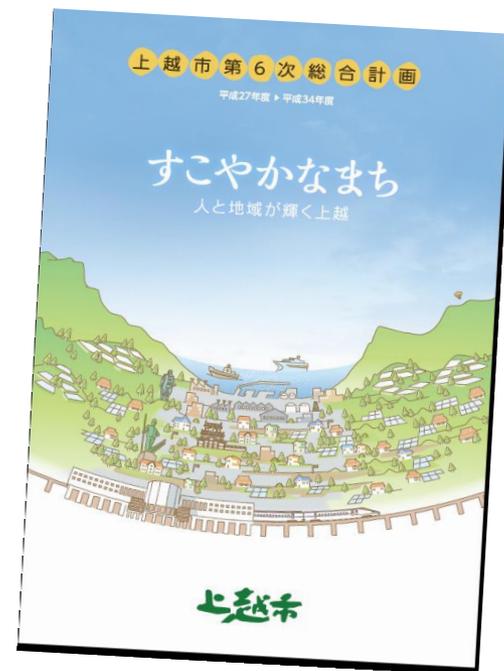
上越市

上越市の概要

人口：196,987人
(平成27年国勢調査)

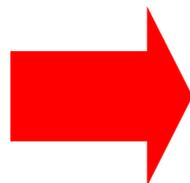
面積：973平方キロメートル

歴史：昭和46年4月、上越地方の経済の中心で文教都市として発展した古くからの城下町・高田市と直江津港後背の臨海工業都市として発展した直江津市が対等合併して誕生。平成17年1月1日に、近隣13町村と合併し新生上越市がスタート。



地域自治区の区域

■ 13の地域自治区
(平成17年1月～)



■ 28の地域自治区
(平成21年10月～)



旧町村の区域に
設置



概ね昭和の大合
併前の区域で設
置

上越市の地域協議会の概要

■ 制度上の位置付け

- 市長の附属機関

■ 話し合う内容

- 市長から意見を求められた案件（**諮問事項**）
 - ・ 区内の公共施設の設置や管理・運営など
- 地域協議会が自主的に選んだテーマ（**自主的審議事項**）
 - ・ 身近な暮らしの課題から、地域特性をいかしたまちづくりのあり方まで

■ 話し合いの成果

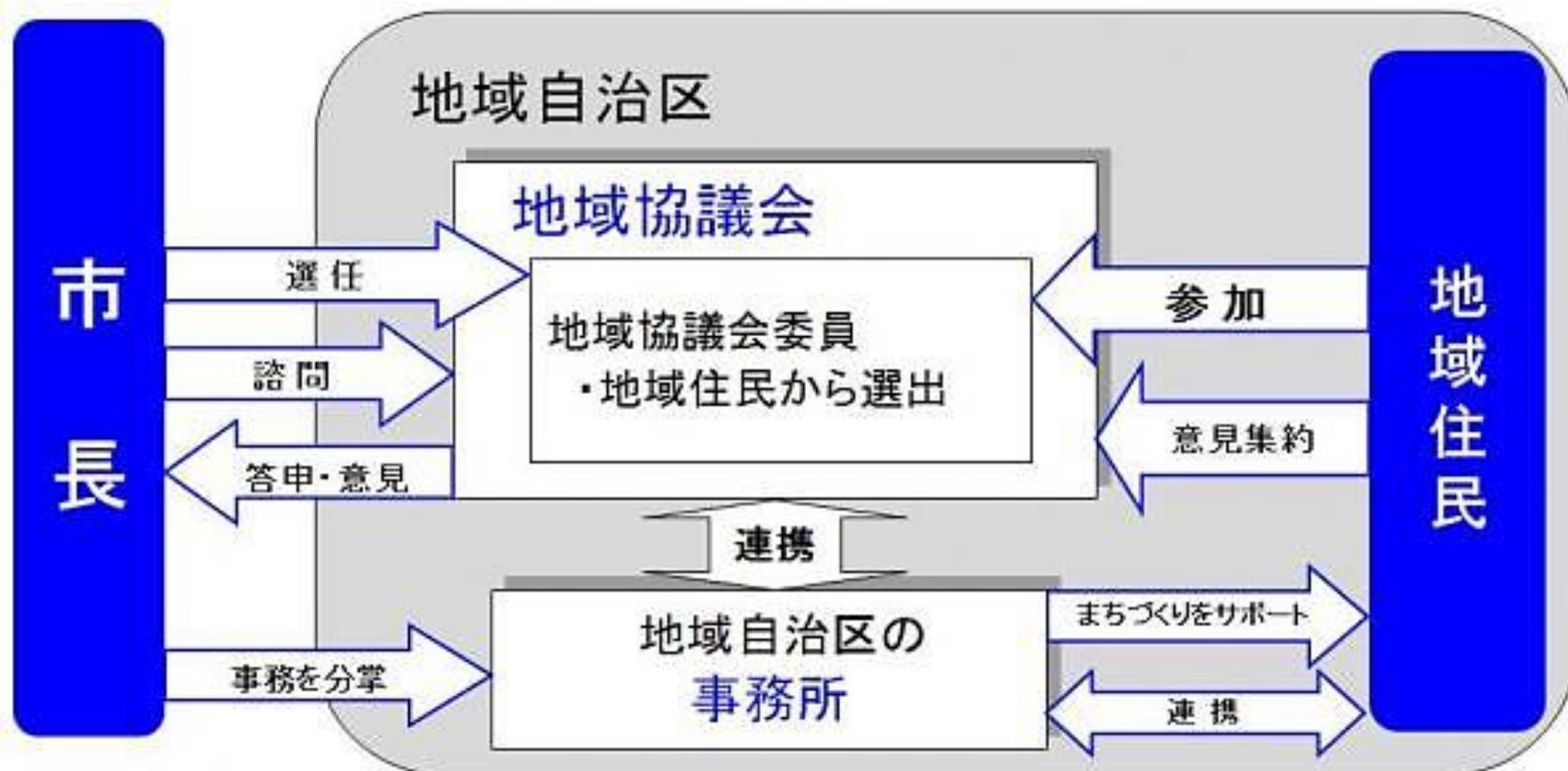
- 諮問に対する答申
 - ⇒ 地域協議会の思いがあれば附帯意見として提出
- 意見書を市長に提出
 - ⇒ 市長の判断により市政運営の中で実現
- 「地域を元気にするために必要な提案事業」
 - ⇒ 提案された事業を市が予算計上

※ 必要があると認められる場合には適切な措置を講じなければならない。

地域自治区のイメージ

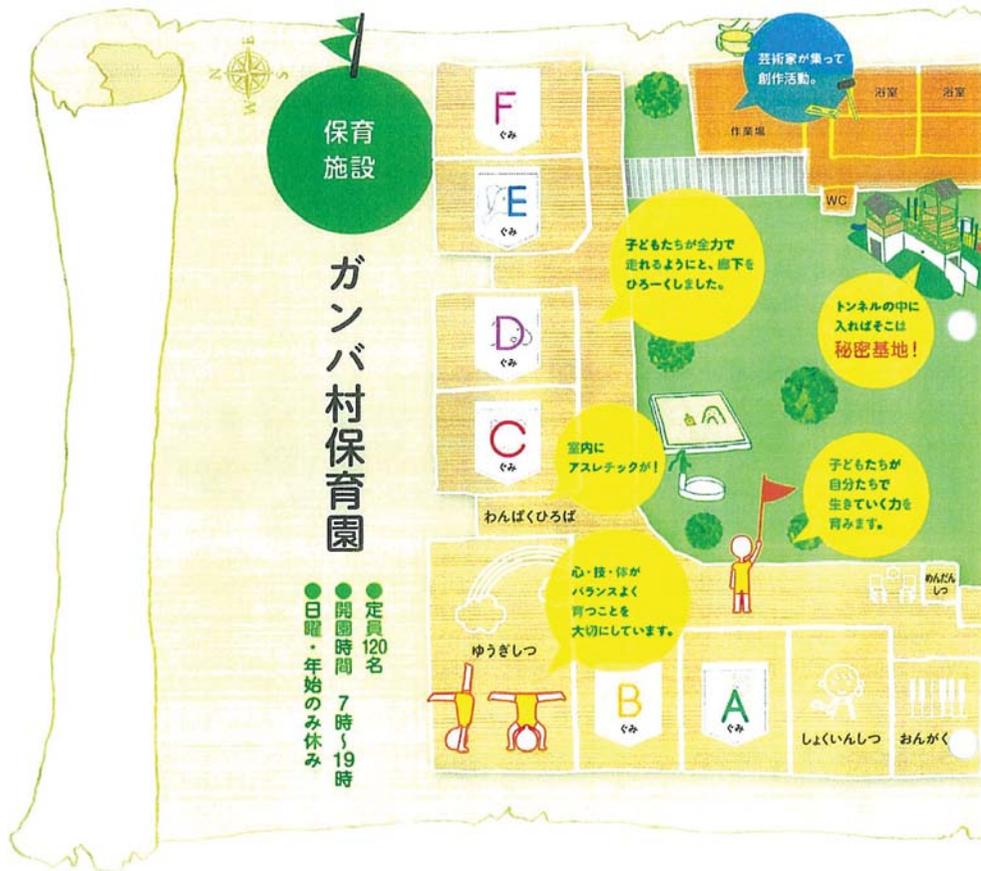
■「地域自治区」とは、

- ・市内をいくつかの区域に分けて、それぞれの区域に
- ・地域の意見の取りまとめを行う「地域協議会」と、
- ・区域内の市の事務を行う「事務所」を置くという地方自治法に基づく制度。



富山市①
あしたねの森

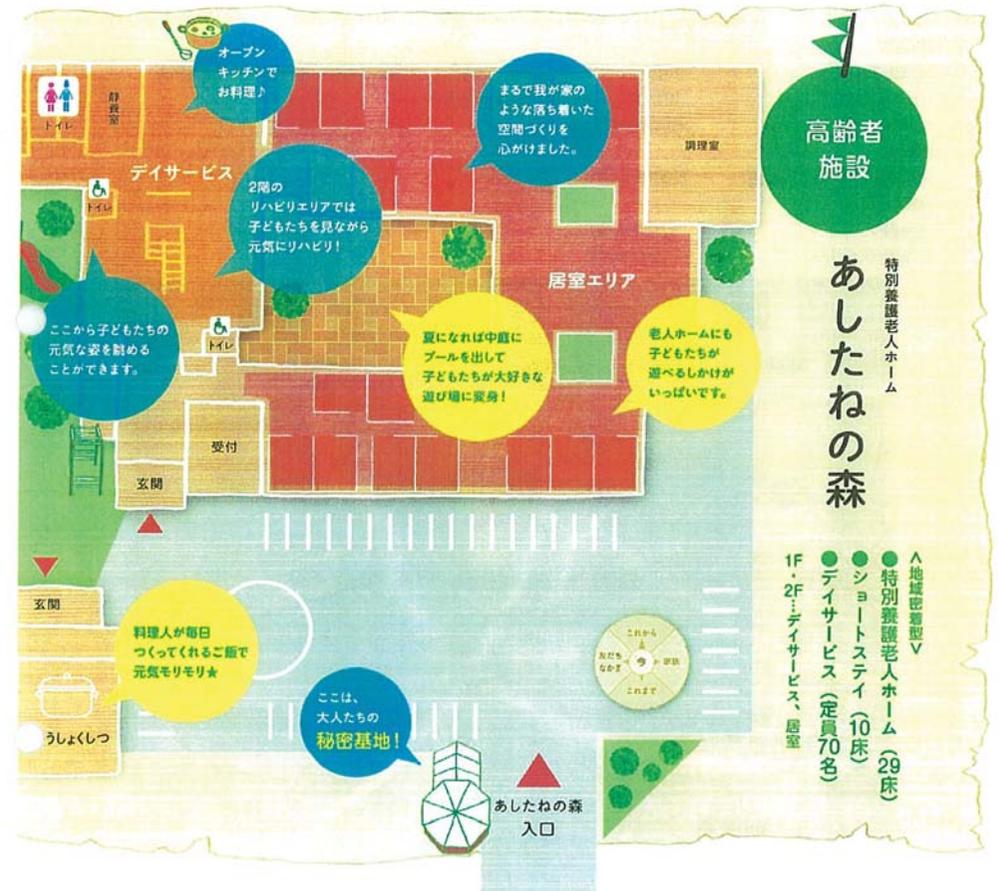
あしたねの森には多世代



高齢者施設と保育園が併設しているので、イベントだけでなく日常的に世代間の交流を行っています。



交流の仕掛けがいっぱい!



職員も子どもを保育園に預けながら勤務できるので安心。仕事と子育てが両立でき、長く勤められます。



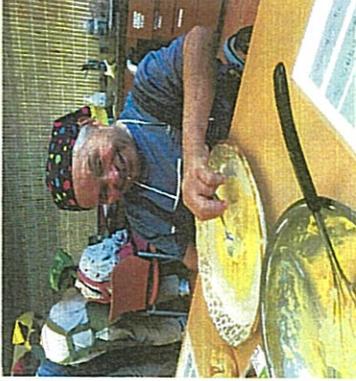
特別養護老人ホームあしたねの森・ショートステイ

～元気になる仕掛けや仕組みがいっぱい詰まった生活の場です～

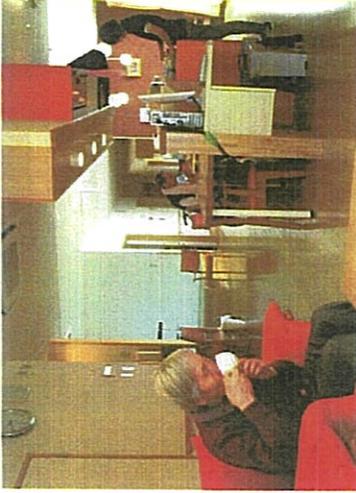
あしたねの森の特養・ショートステイはユニット型個室。ユニット型個室では、9～10人の入居さんが1グループとなり、グループ専属の職員が配置されます。全室個室でプライバシーも確保されながら、グループごとにリビングスペースもあるのです。他入居者、職員と共に家庭的な生活が送れます。また、自宅の延長という考えから、ご家族の積極的な関わりもお願ひしています。

特別養護老人ホームあしたねの森・ショートステイの特徴

◎ユニット型個室で家族的な関わり
全室個室でプライバシーが確保されながら、グループごとにリビングスペースがあり、グループ専属の職員が配置されます。そのためいつも顔なじみがそばにいるため他の入居者さんとともに家族的なコミュニケーションが取れます。



◎ときには大家族のような生活環境
家庭的な雰囲気は自分の住まいとくらえることができ、今までの暮らしの延長という感覚で生活できます。そして、定期的に遊びに訪れる子どもたちとの関わりは、自分の孫たちのような気持ちで接することができます。暖かい気持ちで育てられます。



◎基本介護の徹底

「水分、食事、排泄、運動」を土台に体調を整え、元気につなげます。料理も生活リハビリの一つ！また、ショートステイご利用時、水分不足や便秘などの改善に取り組み、より元気になってお帰りをいただけるよう努めています。



「4つの自律支援」(自立から自律へ)と「5つのゼロ」を目指します

4つの自律支援

- ①認知ケア
食生活や生活リズムを整え認知症の方も穏やかに
- ②リハビリテーション
日々の生活にリハビリ要素がいっぱい！
- ③口腔ケア
誤嚥性肺炎を予防、最後まで美味しい食事を！
- ④看取りケア
最期の瞬間まで安らかな生活を

5つのゼロ

- ①おむつゼロ
日中おむつ装着ゼロ
- ②骨折ゼロ
リスクマネジメントと元気な身体づくり
- ③胃ろうゼロ
食事と水分補給を重視
- ④拘束ゼロ
尊厳を大切にされた介護
- ⑤褥瘡ゼロ
栄養と看護・介護の連携

目標！

あしたねの森のユニット型個室は、9～10人の入居さんが1グループとなります。

日中は「水分、食事、排泄、運動」をベースにした元気で楽しい生活。
夜はプライバシーの守られた個室でぐっすりお休みでき、生活サイクルも整います。

あしたねの森テイスアービス

～主役はあなた！あなたの「できる」「したい」「したい」を応援します～

あしたねの森テイスアービスの特徴は「自己選択・自己決定」。今日1日をどう過ごすか？それを決めるのは利用者さん自身です。テイスアービスでの楽しい時間を自身で決めることにより、スケジュール管理や考えて動くことが全て生活リハビリにつながっています。職員は利用者さんの「もっとこうなりたい…」「元気になるたい…」「生きたいなりたい…」という一人ひとりの願いを大切に、生活リハビリを行うことで生きたいを持ってよう支援しています。

◎多彩なプログラム・メニュー

「自己選択・自己決定」をしていたために用意されたメニューは120種類以上！頭や身体のリハビリだけでなく、料理教室、陶芸やカシノなどもあります。メニューを考案するのも職員のやりがいの一つです。

あしたねの森テイスアービスの特徴



◎宅配ビリビリテーション

生活リハビリで得られたものは、自宅にお持ち帰りいただけます。作った物だけではなく、「動作のコツ」道具や電化製品などの「使い方」など。そして何よりも「自信」や「感動」を持ち帰っていただけます。

◎目標は大きく「旅行」

年に1度、企画している夢旅行。この旅行への参加を目指し、目標を立てられる方も大勢います。何と2015年は東京！！旅行を諦めかけていた方が目標に向かって努力を積み重ね、元気に旅行へ参加されます。



参考：施設内通貨（ユーム）

プログラム・メニューに参加する際に必要となる通貨。支払い、稼ぐ、計算など金銭管理に必要な力を保ち、脳と身体を動かすツールです。



日常の生活動作を大切にした活動



自宅での生活を継続するために、通所介護で生活動作の体験・学習することにより、もう一度自宅での生活を豊かにする目的で、出来なくなかった生活動作に挑戦することを目的としています。

あしたねの森テイスアービスは運動メニューが豊富！理学療法士も在籍しているため、リハビリの視点からも介助を学ぶことができます。

幼保連携型認定こども園 ガンバ村保育園

～「あしたねの森」の施設のよさを最大限に生かして～

子供たちから「元気」をもらい、逆に子どもたちには「知識」や「経験」を伝える。一昔前なら社会で当たり前の環境が、核家族が進んだ今は、家庭だけでなく地域からも失われています。一方、少子高齢化が進む中では、多世代による「支え合い」は不可欠なものになってきます。あしたねの森では、高齢者施設と保育園が併設しています。これは県内唯一の施設です。

そこでガンバ村保育園では、日常生活の中で自然と交流できるこの素晴らしい環境を最大限に生かして、また、様々な工夫を凝らして交流活動を実施しています。

ガンバ村保育園の特徴……キーワードは「多世代交流」「自立」「ヨコミネ式保育」「遊び」

◎特別養護老人ホームやデイサービスの利用者さんと、気軽に、日常的に交流を行っています。園児が訪問し利用者さんと触れあったり歌を歌ったり製作活動をしたりしています。絵本を読んでもらう事もあります。また、利用者さんが園にやってくることで学習の様子や体の様子を気軽に見学します。一緒に交流することもあります。



○一斉保育に「ヨコミネ式保育」を導入

読み・書き・計算・図画・音楽などの活動を毎日継続して行うことで子どもたちのできるが増えています。子どもたちのやる気のスイッチを入れ、才能開花の法則で頑張る。それがヨコミネ式の教育法です。

◎0歳児から、一人一人の成長に合わせて「自立」をめざしています。そのために、準備や片付け、排泄や手洗い、うがいや歯磨きなど、自分で出来ることは出来るだけ自分で行う様になっています。時間をかけて行う事で、基本的な生活習慣で大切な事が、着実に増えていきます。

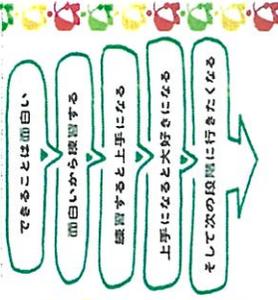
子どものやる気を伸ばす「才能開花の法則」と「4つのスイッチ」

子供のやる気を伸ばすために

4つのスイッチ



才能開花の法則



◎ますますグローバル化する社会において、これからの子どもたちには、「学びに向かう力」や「非認知的能力」が必要とされます。この力を付けるためには「遊び」しかありません。そこで意図的に様々な遊びを経験させ、友だちと仲良く問題を解決しながら、遊びを広げていく子どもを目指しています。

先生も子どもも「感謝」「謙虚」「思いやり」

アルペン会の理念でもある、「感謝」「謙虚」「思いやり」は先生も子どもたちも大切にするキーワードです。

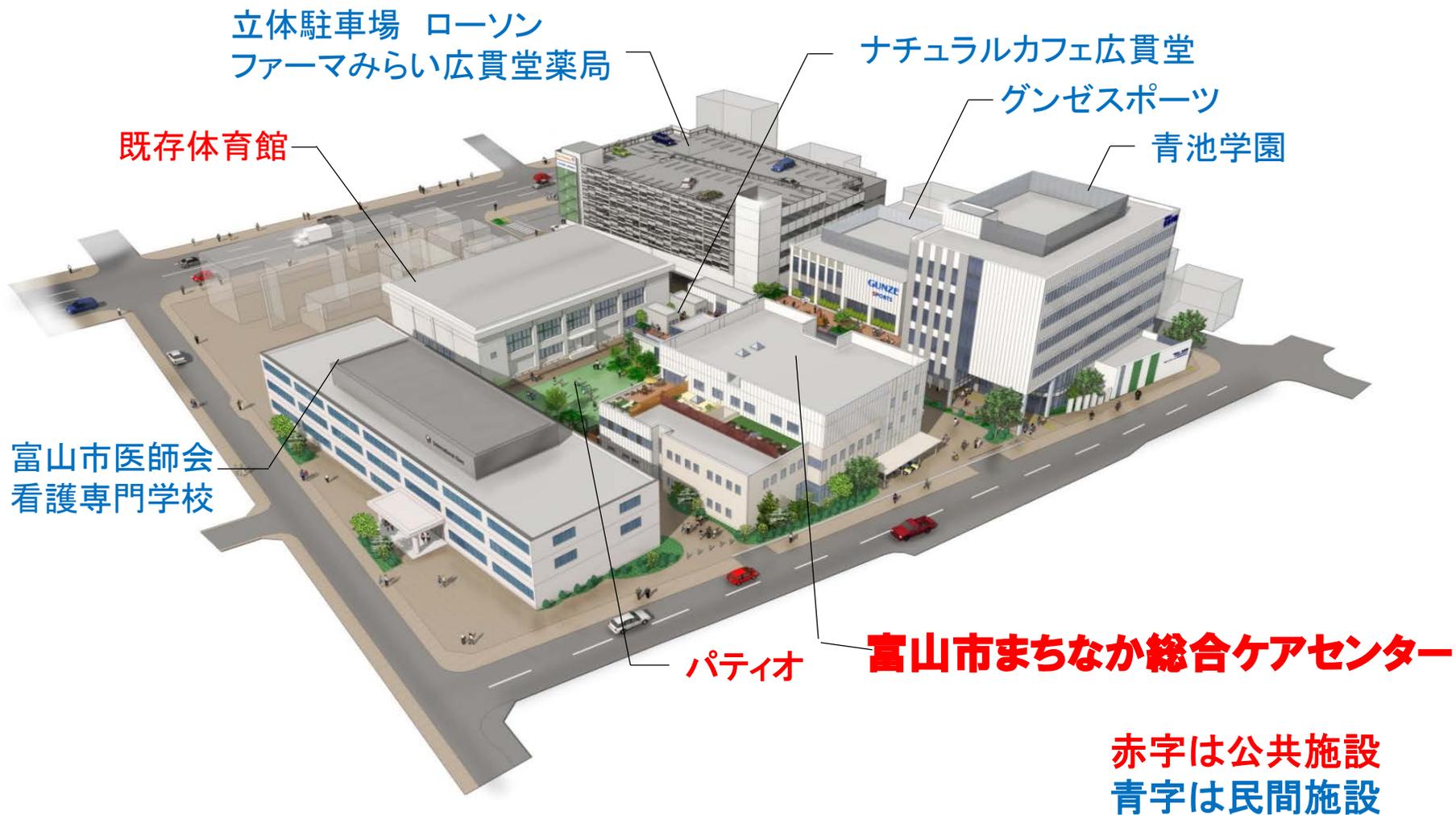
感謝…「ありがとう」「助かった」
思いやり…「がんばれ」「よかったね」
謙虚…「お願いします」「がんばるよ」

自然とこのような言葉が飛び交うには、周りのオトナから実践しお手本となります。時には多世代交流の中で、おじいちゃんやおばあちゃんもお手本にあるときがあります。



富山市②
まちなか総合ケアセンター

総曲輪レガートスクエア ~ひらかれた地域の健康拠点~



(レガート: 結びつき、音を切らずになめらかに演奏する)

特徴的な取り組み①

産後ケア応援室

産後のお母さんの心身の回復と、お子さんとの新しい生活を安心して過ごすことができるようサポートします。

【対象者】

富山市、連携市町村(滑川市、舟橋村、上市町、立山町)に住民票がある、または富山市へ里帰りしている、概ね産後4か月までの母親とその子で、育児に不安がある方、家族支援が受けられない方

※平成30年4月より対象者が拡大(下線部)

【事業内容】

- ・デイケア
- ・宿泊
- ・教室(1回10組/週2回開催)

【営業時間】 24時間体制(年末年始12/29~1/3除く)

【配置職員】 助産師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士など



(平成29年度実績)

| | |
|-------|-------|
| 利用登録者 | 212人 |
| デイケア | 延207日 |
| 宿泊 | 延305泊 |

全国初 市直営の産後ケア施設

特徴的な取り組み②

お迎え型病児保育（病児保育室）

お子さんが体調を崩し、保護者が仕事の都合等で家庭保育ができない場合、保護者に代わって保育看護します。

【利用対象者】

医師による「診療情報提供書」に基づき、病児保育室での病児保育が可能であると診断されている病態であり、富山市、連携市町村（滑川市、舟橋村、上市町、立山町）に住所を有する

◎満6ヶ月以上の未就学児（お迎え型は満1歳以上）10名

※平成30年4月より利用対象を拡大（下線部）

【実施日】

月～金曜日（土・日曜日・祝日
年末年始12/29～1/3は除く）

【保育時間】 7:30～19:00



全国初「お迎え型事業」を西田地方
保育所で先行実施（平成28年10月）

（平成29年度実績）

| | |
|-------|-------|
| 利用登録者 | 654人 |
| 病児保育 | 延814人 |
| お迎え型 | 延 7人 |

特徴的な取り組み③

こども発達支援室

心や身体に発達の遅れが心配される子どもに対し、早期からの相談及び訓練などの支援を行い、障害児とその保護者への切れ目ない支援を推進する。

(1)~(3)については、30年4月から
滑川市、舟橋村、上市町、立山町に
お住まいの方も利用できます

【対象者】 乳幼児期からの発達の気になる子どもと保護者

【事業内容】 (1)児童発達支援事業
(2)障害児相談支援事業
(3)発達障害児相談支援事業
(4)乳幼児発達支援相談支援事業
(5)事業者のネットワークづくり事業

【実施日】 月～土(日曜日・祝日・年末年始12/29～1/3は除く)

【営業時間】 8:30～17:00

【配置職種】 保育士、児童指導員、社会福祉士、作業療法士、
理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士、
保健師、看護師等



(平成29年度実績)
相談 延 5,379件
利用者 延10,942人

金沢市①
Share金沢

Share 金沢 概要

- 1 **運営主体** 社会福祉法人 佛子園 (理事長 雄谷 良成)
- 2 **所在地** 金沢市若松町セ104番1
- 3 **開設年月** 平成26年4月より全面オープン
(オープンニングセレモニー平成26年3月26日)

4 施設の特徴

豊かな自然に囲まれた約1万坪の敷地に、障害児入所施設・高齢者デイサービス事業所・サービス付き高齢者向け住宅・学生向け住宅などが配置された一つのコミュニティを形成し、世代や障害の有無を超えてさまざまな人がとに関わり合いながら暮らしている。

また、敷地内の住人だけではなく、周辺地域に暮らす人々たちが利用できる温泉施設・レストラン・ドックラン・アルパカ牧場も併設し、かつて日本にあった地域コミュニティの再生を目指している。

- ・ 安倍総理が、「地方創生のまちづくりモデル」として視察 (H27. 4. 11)
(シェア金沢は、日本版CCRCとの位置づけ)
- ・ CCRC (米国) とは、高齢者が健康時から終末時まで不安なく暮らせる地域共同体 (Continuing Care Retirement Community)
- ・ 日本版CCRCとは、退職した高齢者が、都市部から地方に移り住み、健康時から終末時まで不安なく暮らせる地域共同体を作る
→ 地方移住の推進
- ・ シェア金沢に住む高齢者は、働けるものは共同売店で働くとともに、介護が必要なものは住居で支援を受けながら、学生や近隣住民等と交流しつつ地域で生活している。

5 事業内容

- (1) 入所・入居施設
 - ① 障害児入所施設：3棟、定員30名
 - ② サービス付き高齢者向け住宅：6棟、32戸
 - ③ 学生住宅：6棟、8戸

(2) 通所事業所

① 障害者(児)関係

ア 就労継続支援事業所A型(定員10)・B型(定員24)

※就労継続支援：一般企業等での就労が困難な障害者に対し、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う

(A型) 一般就労に近い作業のできる障害者を対象に、雇用契約を締結して就労機会を提供(労働基準法、最低賃金法等の適用を受ける)

(B型) いわゆる旧来の授産施設で、軽作業の機会を提供し、工賃を支払う

イ 児童発達支援・放課後等デイサービス(定員10)

※児童発達支援：未就学の障害児に対し、日常生活での基本動作の指導や集団生活に適応できるよう必要な訓練を行う

放課後等デイサービス：就学中の障害児に対し、放課後や夏休み等に生活能力向上のための訓練、社会との交流促進等を行う

② 高齢者関係：デイサービス(定員10)

(3) その他

天然温泉、レストラン、共同売店、喫茶ハウス、全天候グラウンド など



【総面積 / 約11,000坪】



バス待合場 / 子どもたちの通学バス、買物バスのターミナルなど
住人みんなが利用します。

SOUTH地区

S-1 番地 天然温泉

ニューもや(レストラン)

S-Grill.(配食サービス)

高齢者デイサービス・生活介護・訪問介護

EAST地区

E-1 番地 E-2 番地 児童入所施設

E-3 番地 S-ステーション

E-4 番地 クリーニング&コインランドリー
「おしゃれ洗科 ハンズプラス」

E-5 番地 バックヤード

E-6 番地 児童発達支援センター「S-ベランダ」

E-7 番地 「PSI-地域スポーツシステム研究所」

ネイチャー・コミュニケーション

「NPO法人 ガイア自然学校」

シェア金沢学童保育

E-9 番地 アトリエ付き学生向け住宅

E-10 番地 全天候型グラウンド「S-Stadium」

MIDTOWN

M-1 番地 児童入所施設

M-2 番地 サービス付き
高齢者向け住宅

M-3 番地 サービス付き
高齢者向け住宅

M-4 番地 学生向け住宅

M-5 番地 学生向け住宅

M-6 番地 学生向け住宅

M-7 番地 学生向け住宅

M-8 番地 産前・産後ケア金沢
「子どもで応援 1.2.SUN」

M-9 番地 サービス付き
高齢者向け住宅

M-10 番地 学生向け住宅

M-11 番地 学生向け住宅

M-12 番地 児童入所施設

M-13 番地 サービス付き
高齢者向け住宅

NORTH地区

N-1 番地 日用品・生活雑貨「若松共同売店」

N-2 番地 ボタニケア & からだ塾「金澤東山ゆらり」

N-3 番地 プーダン・セレクトショップ
「TARAYANA JAPAN」

N-4 番地 Planning & Creative「グルーヴィ」

N-5 番地 Publish Bar「Mock」

N-6 番地 Foods & Smile「加藤キッチンスタジオ」

WEST地区

W-1 番地 アトリエ付き学生向け住宅

W-2 番地 サービス付き高齢者向け住宅

W-3 番地 サービス付き高齢者向け住宅

W-4 番地 「ウクレレバイナ金沢」

シェア金沢

〒920-1165 金沢市若松町セ104番1 Tel.076-256-1010

E-mail:s-kanazawa@bussien.com

金沢市②
金沢広域急病センター

石川中央都市圏ビジョン



圏域の特色

- ・豊かな自然
- ・日本海側拠点として都市機能が集積
- ・高等教育機関の集積
- ・伝統文化、歴史的なまちなみ 等

将来像

都市と自然、仕事と生活が調和する
 “住みやすさ”日本一の圏域
 ～交流と連携により、全てのひとが
 輝き続ける石川中央都市圏～

【計画期間】

平成28年度から5年間

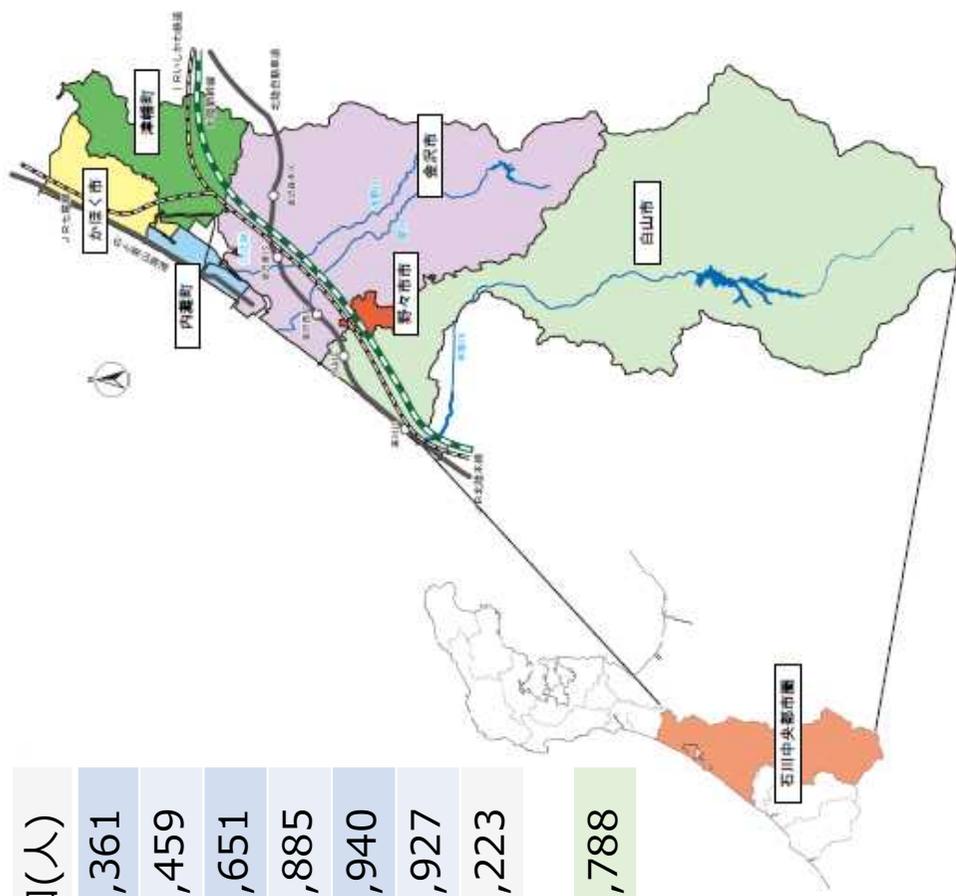


連携協約締結式
 (H28.3.28)

石川中央都市圏の構成

| | 面積(km ²) | 人口(人) |
|------|----------------------|-----------|
| 金沢市 | 468.64 | 462,361 |
| 白山市 | 754.93 | 110,459 |
| かほく市 | 64.44 | 34,651 |
| 野々市市 | 13.56 | 51,885 |
| 津幡町 | 110.59 | 36,940 |
| 内灘町 | 20.33 | 26,927 |
| 圏域計 | 1,432.49 | 723,223 |
| 石川県 | 4,186.09 | 1,169,788 |

- ・面積は国土地理院「平成27年全国都道府県市区町村別面積調」(H27.10.1現在)より
- ・人口は「平成22年度国勢調査」より



金沢広域急病センターについて ～広域連携による医療の取組～



広域急病センター開設までの経緯

大手町夜間急病診療所（昭和57年開設）

- ・施設設備老朽化、駐車場不足、小児科担当医の不足



金沢市救急医療体制検討会【提言】

- ①夜間急病診療所を移転新築化
- ②石川中央医療圏で小児科を運営



白山市から、小児救急について広域連携の提案
連携中枢都市圏の取組で実施



夜間急病診療所の小児科を4市2町で共同運営
(金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町)

金沢広域急病センター 概要

【開設までの経緯】

平成 26 年度

- 本市の救急医療体制の諸課題を検討するために、「金沢市救急医療体制検討会」（座長：金沢市医師会長）を設置（4 回開催）

【主な論点】

- ・夜間急病診療所（施設設備の老朽化、駐車場の不足、小児科出向医の体制）
- ・一次救急の分散（二次救急病院にも多数の時間外軽症患者）

- 金沢市救急医療体制検討会報告書とりまとめ（平成 27 年 3 月）

【提言】

- ①夜間急病診療所の移転新築等を行い、急病センター（仮称）として機能強化
- ②病院勤務医も含め、石川中央医療圏の小児科医全体で体制を構築することが理想
- ③南加賀急病センターのように医療圏で初期救急体制を運営することが理想
- ④二次や三次の医療機関に軽症患者が集中することがないように、救急の適切な利用を市民に啓発していくことが必要

平成 27 年度

- 行政側の動き：白山市から、小児救急について広域連携の提案があり、連携中枢都市圏による取組の中で実施できないか検討
- 小児科側の動き：小児救急に関しては、医療圏での広域運営が望ましい。
場所は、駅西福祉健康センターが適している。
※石川中央医療圏（金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町）

石川中央医療圏の行政、医師会等関係者で調整

- 金沢市保健医療審議会（会長：金沢市医師会長）で方針が決定（平成 28 年 2 月）

- ①夜間急病診療所の小児科を医療圏を構成する 4 市 2 町で共同運営
- ②夜間急病診療所を大手町から駅西福祉健康センター（西念 3 丁目）に移転

平成 28 年度

- 急病センター（仮称）整備懇話会（座長：金沢市医師会長）を設置し、施設の整備や運営についての基本的方針を協議
- 改修工事実施設計

平成 29 年度

- 改修工事（8 月～12 月）
- 急病センター（仮称）整備懇話会提言書とりまとめ（10 月）
- 4 市 2 町で小児科共同運営の基本的合意（10 月）

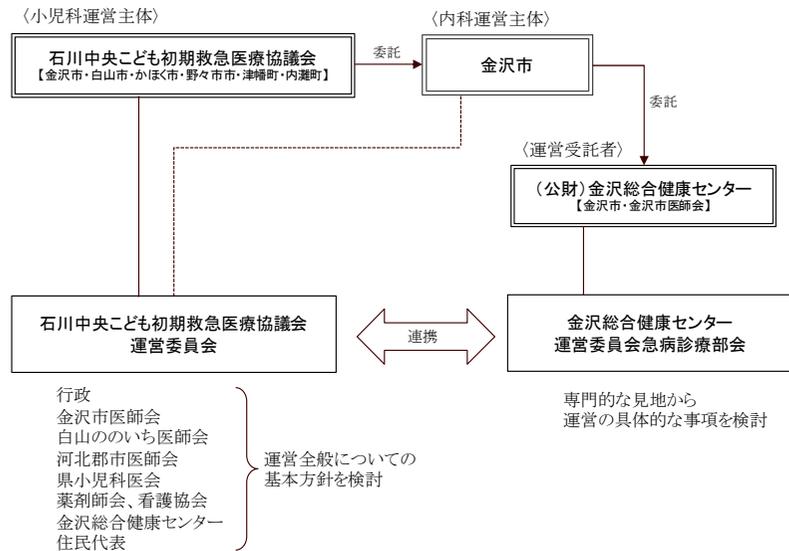
平成 30 年 4 月 9 日（月）金沢広域急病センター開所（大手町は 4/8 で診療終了）

【施設概要】

名称：金沢広域急病センター
 場所：石川県金沢市西念 3 丁目 4 番 2 5 号（駅西福祉健康センター 1 階）
 主な設備：診察室（小児科 2・内科 2）、処置室、薬局、点滴室、X 線撮影室、隔離室
 延床面積：905㎡
 駐車場：地下駐車場 60 台（支え合い駐車場 2 台）
 建物正面駐車場 16 台（支え合い駐車場 2 台）
 敷地隣接駐車場 49 台
 電話：076-222-0099
 FAX：076-222-5566
 URL：www.kanazawa-kouiki.jp

【開設者】

金沢市



※小児科の運営経費（診療収入で不足する額）は、各市町患者数の比率により費用負担する。

【診療日／診療時間】

毎日（年中無休）／19：30～23：00

※受付時間「19：00～23：00」

【診療科】

小児科・内科

【スタッフ】

- 小児科医：1人（金沢市医師会、白山ののいち医師会、河北都市医師会
金沢大学附属病院、金沢医科大学病院 ほか）
- 内科医：1人（金沢市医師会）
- 薬剤師：1人（金沢市薬剤師会、石川県薬剤師会白山ののいち支部・河北支部）
- 看護師：4人（臨時職員雇用）
- 事務員：2人（受付事務委託）
- 警備員：1人（委託職員）
- ※ただし、繁忙期は追加配置あり

【二次救急・後方支援体制】

- 夜間医療機関案内：午後7時30分から翌朝9時まで
（午後11時以降は、電話自動応答案内）
- ホームページにて、当日の二次救急応需病院を案内

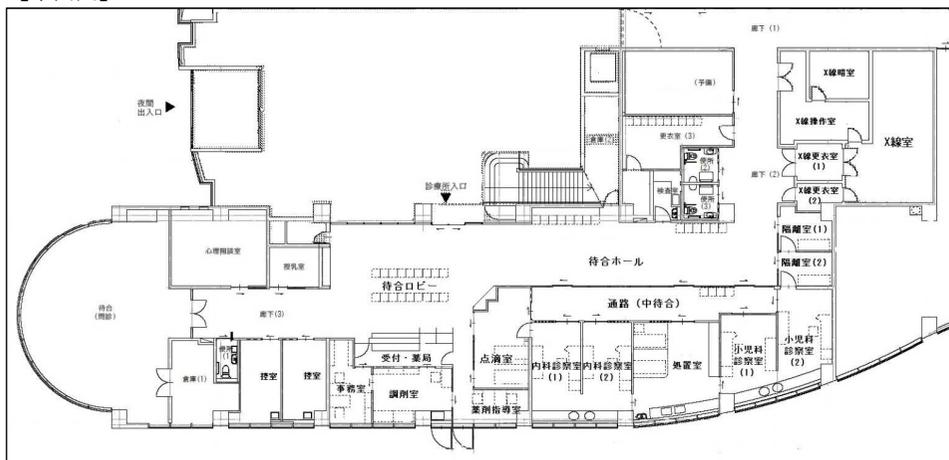
【施設の活用】

- 昼間は、こども（3か月児・1歳6か月児・3歳児）の健診医療機関として、
夜間は、初期救急の診療所として利用。

【診療方針】

- ・小児科と内科の急病患者を診療します
- ・原則として応急処置のみを行います
- ・精密な検査や入院が必要な方には病院を紹介します
- ・薬の処方原則1日分です
- ・翌日以降、かかりつけ医の診療時間内に診療を受けてください

【平面図】



【参考】

- 旧施設（大手町夜間急病診療所）の概要
- ・開 設：昭和57年5月
 - ・診 療 科：内科、小児科
 - ・診療時間：19:00～23:00（年中無休）
 - ・職員体制：内科医：1人（金沢市医師会）
小児科医：1人（金沢市医師会。週1回は金沢大学附属病院から）
薬剤師：1人（金沢市薬剤師会）
看護師：3人（臨時職員雇用）
事務員：1人（受付事務委託）
- ※ただし、繁忙期は追加配置あり
- ・施設概要：所在地 金沢市大手町3番23号（金沢健康プラザ大手町西館1階）
延床面積495㎡

○近年の患者数推移

（単位：人）

| 区分 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小児科 | 3,706 | 3,529 | 4,010 | 4,122 | 4,449 |
| 内科 | 2,404 | 2,542 | 2,515 | 2,827 | 2,805 |
| 合計 | 6,110 | 6,071 | 6,525 | 6,949 | 7,254 |

※約85%が金沢市民



鯖江市

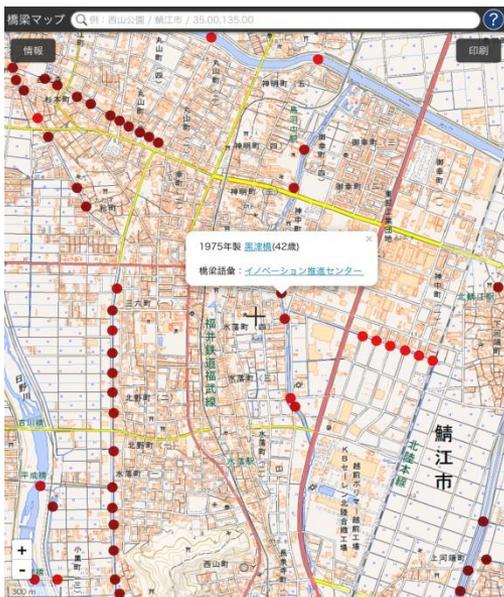
公開データ 200種類、民間作成アプリ 250種類



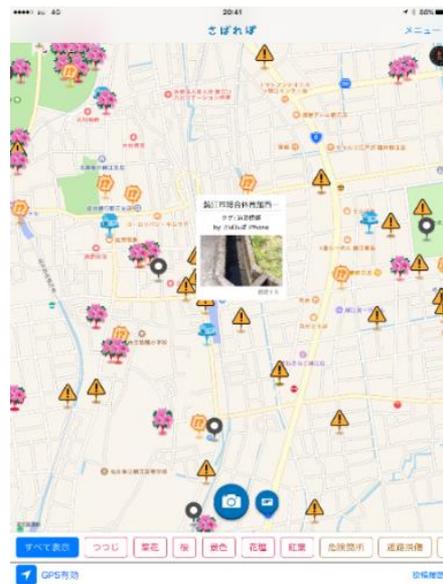
つっじバスロケーション & 丹南病院発着情報サービス



バス乗客リアルタイムオープンデータシステム



橋梁マップアプリ



市民協働アプリ「さばれぽ」

ホームページ上で、さまざまな情報（オープンデータ、アプリ）を公開



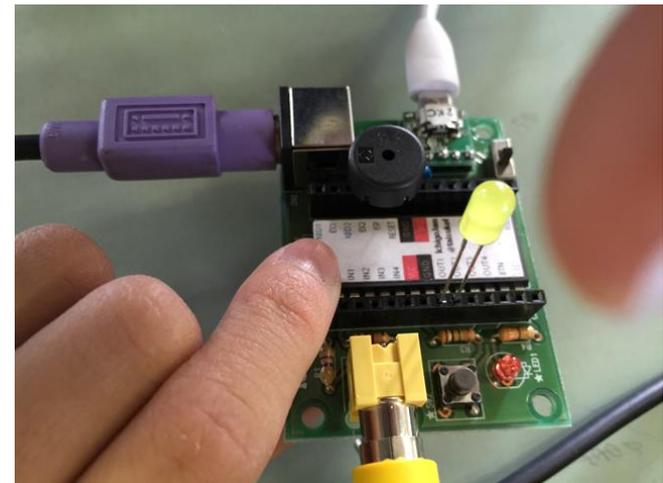
- 行政の透明性を図り、市民の信頼を高める。
- 市民との情報共有が図られることにより、市民との協働によるまちづくりを実現。

IT人材の育成～プログラミング教育義務教育化に向けて～ 小中学校にプログラミングクラブ発足



2014年 鯖江市生まれ
“子ども向けパソコン「ichigojam」”
を使い、IT人材の育成

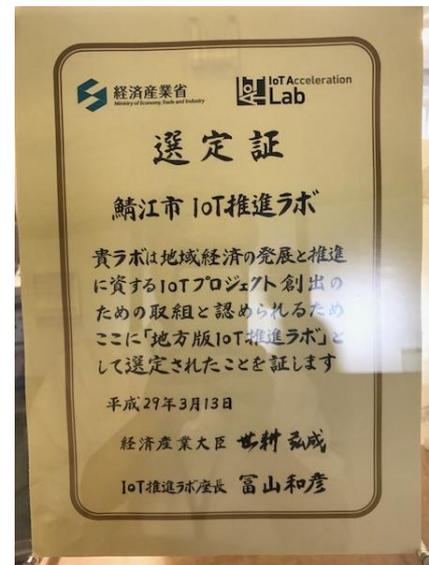
光、音、制御



鯖江市IoT推進ラボ

■ 福井県鯖江市

- ・高齢者や交通弱者の足の確保、高齢者運転による事故の増加等の課題に対し、公共交通の充実、利用促進を目指して、2014年11月から、全コミュニティバス「つつじバス」にタブレットを乗せ位置情報を取得、ホームページで「バスどこサービス」を提供。
- ・今後、より満足度の高いコミュニティバス運行を目指し、(株)jig.jp、(株)アートファインックス、Yahoo株式会社と連携し、最新のIchigoJam、IoT機器を組み合わせ、コミュニティバスの利用者データ（バス停ごとの乗降者の数、時間、年齢など）をリアルタイムに蓄積するシステム、それらのデータを分析するシステムの構築を進める。
- ・更に、イベント情報や観光情報、マーケティングとの連動等、情報連携の範囲を拡大し、市を訪れる方々にとっても利便性の高いコミュニティバス化を目指す。



鯖江市役所 JK 課プロジェクト詳細説明

※2018.6.25 現在

団体名 鯖江市役所 JK 課

発足日 2014.4.14

参加者数 6 高校 43 人 ※2018.6.25 現在

活動概要

鯖江市は 2003 年に「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」、2010 年に「鯖江市民主役条例」を市民提案から制定し、他地域に先駆けて「市民主役・市民協働」のまちづくりを進めてきました。しかし、活動は一部の市民や特定の団体の間に留まることが多く、その裾野を広げることが課題でした。また、特に女性の高校卒業後の転出や地域離れは顕著になっており、おしつけることなく、地域に興味や関心・愛着を持ってもらうための施策が必要でした。そこで鯖江市は、若者や女性が日常生活の中で気軽に地域活動に参加し、自分事として楽しみ続けてもらうための実験的プロジェクトとして、2014 年 4 月に「鯖江市役所 JK 課」を立ち上げました。ネーミングや手法等、いかにも大胆な提案に対し、行政としてどう対応していくのかが懸念されましたが、女子高校生自らが企画し、大人を巻き込みながら地域活動を実践することを通じ、若者や女性が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目指しています。参加した女子高生たちは自由な環境下で自らが企画し、大人や地域を巻き込みながら、年間 80 日、20 回以上の事業実施という予想以上の実績にのぼり、多様な活動に取り組み続けています。

活動の広がり

■多世代への波及

女子高生が自由な環境下で大人を巻き込みながら活動することにより、予想外の化学反応が生まれるというコンセプトに、ほどこなく多様な世代が賛同し始めました。4 年間で 10 回を数えた「ゴミ拾い企画」では、小学生から高齢者まで幅広い世代の市民が毎回 100 人以上集い、多世代交流を楽しみながらゴミ拾い活動を行っています。さらに、JK 課の活動に感銘した 40 代以上の女性たちが、私たちにも何かできることがあるのではと、2014 年 6 月に「鯖江市 OC（おぼちやん）課」を発足してイクメンパパへの支援や婚活イベントを企画したり、男子高校生も、2015 年 4 月に JK 課 OG が設立した「SAN」に加入して活動を始めるなど、まちづくり活動が自分事として多世代に波及しています。

■ 全国への横展開

2016 年には姉妹プロジェクトとして、愛知県豊橋市 JK 広報室や滋賀県湖南市役所 JK 課が誕生するなど、全国へ広がっています。

市民と仮装してゴミ拾い



豊橋市 JK 広報室を訪問



継続性

■ 学校の理解と協力の拡大

2014 年の発足当時は全国からの誹謗中傷もあって、学校側の賛同はほとんどなく 2 校 13 人でのスタートでしたが、多くの市民の協力で支援をいただく中、JK 課が女子高生にとつての居場所の一つとなっておりことや、地道なまちづくり活動を通じて JK 課の活動を公欠扱いにさせていただくなど、学校側との間で信頼関係が育まれ、現在では 6 校 43 人の女子高生が集まっています。さらには、2016 年度は現代社会、2017・2018 年度には家庭科の高校の副読本にも JK 課プロジェクトが取り上げられるなど、社会的な評価も受けるようになりました。

■ 地域住民との絆

スイーツで地域を盛り上げようと、市内菓子店 11 人からなるパティシエグループ「ポ一ノ夢菓房」の積極的な協力をいただきながら、地域住民との深い絆の中で、発足当初から 5 年に亘って、JK 課オリジナルスイーツを製作・販売しています。

現代社会副読本表紙



JK 課オリジナルスイーツ開発



地域資源の活用

■ 鯖江の地場産業「メガネ」のデザイン

福井県眼鏡協会の協力により、国内製造シェア約 96%を誇る地場産業のメガネフレームを女子高生の視点でデザインし、国際メガネ展 IOFT に出展し商談に参加するなど、全国に向けて地場産業の PR に寄与しました。また、鯖江商工会議所眼鏡業部会から提供していただいたメガネをかけて、イベント開催時や視察・講演時に鯖江のメガネを PR しています。

■ 鯖江の特産品と大手コンビニエンスとのコラボ

河和田地区の伝統薬味である辛みの効いた「山うに」を PR しようと、地元企業とのコラボにより、子どもや女性にも食べやすい「アボガド山うにたこ焼」を開発しました。これがかっかけとなり、(株) ローソンとの共同で「山うに」を使ったおにぎりとサンドイッチを開発し、2018年1月から6週間の期間限定で中部エリア約1,500店舗で販売して PR しました。他にも、チーム農業女子を結成して、北中山地区の伝統野菜「川島ごぼう」の収穫の様子をメディアを活用して PR しました。

JK 課オリジナルメガネ



ローソン「山うに」コラボ



創意工夫

■ 大人は裏方

プロジェクトの実施にあたって重要視していることは、大人がまちづくりや市政といったことを教育せず、主役である女子高生たちを「信じて、任せる」こと。活動時の服装や髪色も高校生自身に判断を任せています。大人からの押し付けは一切排除し、大人はメンバー自身が考えたものを後方からサポートすることに徹しています。

■ JK が主役のゆるくてちよっただけ堅い会議

JK 課の会議は大人が主導することなく、お菓子やジュースといったアイテムを使って話しやすい雰囲気を作り、時には「KJ法」という手法を用いたりして、やってみていことや普段の悩みごとを付せんに書き出しグループ分けしながら、幾つかのプロジェクト

クトにまとめていきます。JK 課にリーダーは存在せず、フラットな関係の中で、やってみようと決まった企画ごとに LINE グループを作って、その企画をやりたいメンバー同士が話を進めます。

会議風景



やりたいことは自分たちが



成果

■地域の大人や地域、そして若者自身の「変化」

全国への「鯖江市」の知名度向上には繋がっており、4年間で150件、2,000人を超える方が鯖江市へ視察に訪れています。また、これまで大人は若者に対し「政治に無関心な若者に意見を求めても無駄」といった先入観があったと思われませんが、このプロジェクトを通じて大人側のこうした思い込みが排除され、若者と一緒にかかやってみようと思うようになったことも、大きな成果の一つであり、大人側の「変化」であると考えられます。さらに、メンバー自身にとっても、地域住民や行政とのつながりの中で、社会そのものが他人事から自分事へと変わり、主権者意識が芽生えてきたことも大きな変化だと思っています。

■JK 課卒業後も鯖江を舞台にまちづくり

福井県では高校生の3割が県外へ転出すると言われています。こうした中、JK 課卒業メンバー19人のうち17人は県内での就職や進学の道を選び、そのうち13人は SAN や（一社）ゆるパブリックという市民団体を設立したり、参加したりしてまちづくり活動を継続しています。

地元とコラボ農業女子



JK 課 OG おもてなし企画

